



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 40 No. 5
October 2015**

毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

2015 年度一般社団法人 日本毒性学会 評議員会・社員総会報告	57
2014 年度事業報告／	
2014 年度収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録・注記／	
2015 年度事業計画書／2015 年度予算書／2015 年度新名誉会員一覧／	
2015 年度新功労会員一覧／2015 年度名誉トキシコロジスト一覧／	
2015 年度新評議員一覧／2015 年度田邊賞受賞論文一覧／	
2015 年度ファイザー賞受賞論文一覧／	
2015 年度学会賞・奨励賞および技術賞受賞論文一覧	
「学会賞を受賞して」 遠山 千春	74
「奨励賞を受賞して」 李 辰竜, 藤代 瞳	75
「技術賞を受賞して」 鈴木 慶幸, 水上 拓郎, 山下 晃人	76
「田邊賞を受賞して」 倉岡 功, 山下 晃人, 黄 基旭	77
「ファイザー賞を受賞して」 佐藤 洋, 山口 敦美, 大河原 晋	79
第 42 回日本毒性学会学術年会報告	81
第 43 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報)	82
2016 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	83
2016 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	84
2016 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	84
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募	85
第 17 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	87
第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	88

その他のお知らせ

CBI 学会 2015 年大会のご案内	89
第 55 回日本臨床化学会 年次学術集会のお知らせ	89
日本薬物動態学会第 30 回年会概要	90

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内／変更手続き

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

2015年度 一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告

会 期：2015年6月30日（火）13：30～14：45
 会 場：石川県立音楽堂 第1会場（コンサートホール）
 議 長：鍛冶 利幸（第42回学術年会長）
 社員（一般会員および学生会員）数：2,661名
 社員出席者数：260名（委任状数：1,595通）

午後1時30分、定款第23条に基づき鍛冶第42回学術年会長が議長となった。また定款第24条の社員総会成立要件である、定足数（総社員数の2/3以上）に達したことが報告され、2015年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会が開催され議事に入った。

I. 審議・承認事項

第1号議案 2014年度事業報告

眞鍋理事長より、2015年度の主な変更点（初めての社員総会の開催、日化協LRI賞の新設、学会事務局変更）の説明の後、2014年度の実業について報告があり承認された。

第2号議案 2014年度決算および監査報告

青木財務委員長より、2014年度の収支決算について報告があった。落合監事、佐神監事より、学会の実業および会計が適切に行われているとの監査報告があり、収支決算は原案通り承認された。

第3号議案 新名誉会員・功労会員の推薦

眞鍋理事長より、新名誉会員2名および新功労会員2名を推薦する旨、報告され承認された。

第4号議案 新評議員の推薦・現評議員の再任

眞鍋理事長より、新評議員として17名を推薦することが提案され承認された。また、評議員の2015年度の再任（235名）については、既に昨年の任意団体日本毒性学会評議員会・総会にて承認を得ていることから今年度は再任の承認は行わない旨、説明があった。

第5号議案 第44回学術年会長の推薦

眞鍋理事長より、第44回学術年会長として熊谷嘉人先生（筑波大学）を推薦する旨、提案があり承認された。

第6号議案 事務局変更・定款変更（事務局所在地）

眞鍋理事長より、学会事務局が2015年11月1日より、株式会社メディカルトリビューンから、株式会社毎日学術フォーラムへ変更となる旨、説明があり承認された。また、事務局所在地の変更に伴い定款第3条（主たる事務所の所在地）が以下の通り変更となる旨、説明があり承認された。

「第3条 本会は、主たる事務所を東京都千代田区一ツ橋一丁目1番1号パレスサイドビルに置く。」

II. 報告事項

1. 2015年度事業計画

眞鍋理事長より、2015年度事業計画について報告があった。

2. 2015年度予算

青木財務委員長より、2015年度収支予算について報告があった。

3. 教育委員会

務台教育委員会委員長より、認定トキシコロジストの認定制度規程および細則、名誉トキシコロジスト表彰に関する細則及び米国毒性学会教育コースへの会員派遣に関する規定についての改定と英訳作業の完了について、また新名誉トキシコロジスト表彰者（3名）、認定トキシコロジスト総会、第18回基礎教育講習会、第16回認定トキシコロジスト認定試験、第16回生涯教育講習会、2015年米国毒性学会（SOT）教育コース派遣及び、新版トキシコロジー改定（2017年出版予定）について報告があった。

4. 編集委員会

鍛冶編集委員会委員長より、学会誌（The Journal of Toxicological Sciences）の発行状況と論文掲載数についての報告があった。また、オンライン学会誌（Fundamental Toxicological Sciences）の発行状況、論文掲載数及び、2015年6月からのJ-STAGEへの掲載開始について報告があった。

加えて、2015年度田邊賞及びファイザー賞受賞論文が報告された。

5. 学術広報委員会

熊谷学術広報委員会委員長より、学術小委員会および広報小委員会からの報告について説明があった。また、2015年度学会賞、奨励賞、技術賞受賞者、望月喜多司記念賞受賞者及び、日化協 LRI 賞受賞者が報告された。

6. 連携小委員会

菅野連携小委員長より、米国 SOT との共催企画について説明があった。また、国内外関連学会連携担当者が紹介された。

7. その他

1) IUTOX

広瀬 IUTOX 担当より、現在提案されている IUTOX Recognized Toxicologist (IRT) のモデルプログラムに対し、DJSOT の条件と整合しない部分については JSOT から提案を行う予定であることが報告された。また、IUTOX 関連の今後の会議の予定及び、CTDC および ICT コラボレーションについて報告があった。

2) ASIATOX

永沼 ASIATOX 担当より、2015年度 ASIATOX-VII の開催（2015年6月23日～26日）が盛会のうちに終了した旨、報告があった。

Ⅲ. 学術年会

1. 第42回学術年会報告

鍛冶第42回学術年会長より、現況報告と会員諸氏のご協力への感謝表明があった。

2. 第43回学術年会長挨拶

佐藤第43回学術年会長より、次期学術年会の開催について説明があった。

以上の各議案についての審議・報告を終了した後、名誉会員・功労会員証授与式、学会賞・奨励賞授賞式、田邊賞・技術賞・ファイザー賞授賞式、望月喜多司記念賞授賞式、日化協 LRI 賞授賞式を執り行った。

文責：北嶋 聡（総務委員長）

(資料1)

一般社団法人日本毒性学会 2014年度事業報告

事業の部

日本毒性学会は、2014年（平成26年）5月1日に一般社団法人化した。これに伴い、これまでの日本毒性学会会則を廃止し、新たに一般社団法人日本毒性学会定款を定め（平成26年4月25日制定、平成26年5月1日改訂）、また会計年度を、これまでの1月～12月から、5月～翌4月と変更した。今年度の主な変更点は、委員会体制では総務委員会の下、連携小委員会が新設された事、賞では日本毒性学会特別賞が新設された事、また学術雑誌ではFundamental Toxicological Sciences (Fundam. Toxicol. Sci.) が創刊された事である。

2014年度事業報告の概要は以下の通りである。

(敬称略)

1. 会員の異動

(1) 会員数 (2015年4月30日)

一般会員	国内	2,123名
	海外	47名
評議員	国内	277名
	海外	1名
学生会員	国内	151名
	海外	1名
名誉会員	国内	24名
功労会員	国内	24名
賛助会員		38名

(2) 名誉会員・功労会員推薦

新名誉会員	2名
新功労会員	2名

2. 会議の開催

理事会	2014年7月1日, 2月5日
総会・評議員会	2014年7月3日

3. 学術集会・講習会の開催

(1) 第41回日本毒性学会学術年会

2014年7月2日～7月4日
 神戸コンベンションセンター
 年会長：中村 和市（北里大学獣医学部）
 参加者：1,525名

(2) アジア毒性学会学術会議 (ASIATOX)

※ 2014年度は日本毒性学会としては開催なし

(3) 第15回日本毒性学会生涯教育講習会

2014年7月5日
 神戸コンベンションセンター
 受講者：125名

(4) 第12回市民公開セミナー：

「食, サプリメント, くすり, 環境の安全を考える」
 2014年7月5日
 神戸国際会議場
 参加者：80名

(5) 第17回日本毒性学会基礎教育講習会

2014年8月7日～8月9日
 東京大学農学部
 受講者：109名

4. 認定試験の実施

第17回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験
 2014年10月5日
 昭和大学旗の台キャンパス
 出願者：77名
 認定者：24名

5. 学会誌・その他の刊行物の刊行

The Journal of Toxicological Sciences
 39巻3号～6号, 40巻1号～2号, Supplement
 Fundamental Toxicological Sciences
 1巻1号～2巻2号
 毒性学ニュース 39巻3号～6号, 40巻1号～2号

6. 賞の授与

(1) 2014年度特別賞受賞者 (1名)

遠藤 守信 (信州大学カーボン科学研究所)
 研究課題名：カーボンナノチューブ及びナノマテリアルの毒性評価の重要性～安全なナノ構造のデザインに向けて

(2) 2014年度学会賞受賞者 (1名)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・毒性部)
 研究課題名：医学・分子生物学・システムバイオロジーとの融合による毒性学の最適化とリスク評価への応用：Genomics から Phenomics へ

(3) 2014 年度奨励賞受賞者 (2 名)

岡本 誉士典 (名城大学薬学部)

研究課題名: 環境中・生体内代謝過程における化学物質の毒性獲得機構とその制御

吉岡 亘 (東京薬科大学薬学部病態生理学教室)

研究課題名: 化学物質によるプロスタグランジン E2 産生増加が引き起こすマウス新生仔における水腎症発症

井上 薫 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部)

高橋 美和 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部)

森田 健 (国立医薬品食品衛生研究所安全情報部)

小野 敦 (国立医薬品食品衛生研究所総合評価研究室)

(4) 2014 年度技術賞受賞者 (3 名)

大村 功 (アステラス製薬株式会社安全性研究所)

研究課題名: 化学発がん過程における DNA メチル化と遺伝子発現変動の相関解析

外山 喬士 (東京理科大学薬学部環境健康学)

研究課題名: 親電子性金属化合物による蛋白質の化学修飾の簡便な検出法の確立

福山 朋季 (一般財団法人残留農薬研究所)

研究課題名: 短期間暴露 in vivo 試験法による環境化学物質免疫毒性評価法の構築

論文: A convenient method to assess chemical modification of protein thiols by electrophilic metals

著者: Takashi Toyama, Yasuhiro Shinkai, Toshiyuki Kaji and Yoshito Kumagai
J. Toxicol. Sci. Vol. 38, No. 3, 477-484, 2013

受賞者: 外山 喬士 (東京理科大学薬学部環境健康学研究室)

新開 泰弘 (筑波大学医学医療系環境生物学分野)

鍛冶 利幸 (東京理科大学薬学部環境健康学研究室)

熊谷 嘉人 (筑波大学医学医療系環境生物学分野)

(5) 2014 年度田邊賞受賞論文 (4 題)

論文: Simulation of acute reference dose (ARfD) settings for pesticides in Japan

著者: Midori Yoshida, Daisetsu Suzuki, Kiyoshi Matsumoto, Mariko Shirota, Kaoru Inoue, Miwa Takahashi, Takeshi Morita and Atsushi Ono

J. Toxicol. Sci. Vol. 38, No. 2, 205-214, 2013

受賞者: 吉田 緑 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部)

鈴木 大節 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部)

松本 清司 (信州大学ヒト環境科学研究支援センター生命科学分野動物実験部門)

代田真理子 (麻布大学獣医学部動物応用科学科比較毒性学研究室)

論文: Involvement of decreased glutamate receptor subunit GluR2 expression in lead-induced neuronal cell death

著者: Keishi Ishida, Yaichiro Kotake, Masatsugu Miyara, Kaori Aoki, Seigo Sanoh, Yasunari Kanda and Shigeru Ohta

J. Toxicol. Sci. Vol. 38, No. 3, 513-521, 2013

受賞者: 石田 慶士 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

古武弥一郎 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

宮良 政嗣 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

佐能 正剛 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所薬理部第二室)

太田 茂 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

論文: Mechanisms of cadmium-induced chronotoxicity in mice

著者: Nobuhiko Miura, Atsushige Ashimori, Asuka Takeuchi, Katsumi Ohtani, Naoko Takada, Yukie Yanagiba, Masaharu Mita, Masako Togawa and Tatsuya Hasegawa
J. Toxicol. Sci. Vol. 38, No. 6, 947-957, 2013

受賞者: 三浦 伸彦 (労働安全衛生総合研究所)
芦森 温茂 (奈良先端科学技術大学院大学)
大谷 勝己 (労働安全衛生総合研究所)
柳場 由絵 (労働安全衛生総合研究所)
三田 征治 (北里大学薬学部)
長谷川達也 (山梨県富士山科学研究所)

(6) 2014年度ファイザー賞受賞論文 (3題)

論文: Protein disulfide isomerase knockdown-induced cell death is cell-line-dependent and involves apoptosis in MCF-7 cells

著者: Tomoyo Hashida, Yaichiro Kotake and Shigeru Ohta
J. Toxicol. Sci. Vol. 36, No. 1, 1-7, 2011

受賞者: 橋田 智世 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)
古武弥一郎 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)
太田 茂 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

論文: Cadmium toxicity is caused by accumulation of p53 through the down-regulation of *Ube2d* family genes *in vitro* and *in vivo*

著者: Maki Tokumoto, Yasuyuki Fujiwara, Akinori Shimada, Tatsuya Hasegawa, Yoshiyuki Seko, Hisamitsu Nagase and Masahiko Satoh
J. Toxicol. Sci. Vol. 36, No. 2, 191-200, 2011

受賞者: 徳本 真紀 (愛知学院大学薬学部衛生薬学講座)
藤原 泰之 (愛知学院大学薬学部衛生薬学講座/現・東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
長谷川達也 (山梨県富士山科学研究所環境共生研究部)
瀬子 義幸 (山梨県富士山科学研究所環境共生研究部)

永瀬 久光 (岐阜薬科大学衛生学研究室)
佐藤 雅彦 (愛知学院大学薬学部衛生薬学講座)

論文: Gene expression profiling using DNA microarray analysis of the cerebellum of mice treated with methylmercury

著者: Gi-Wook Hwang, Jin-Yong Lee, Katsunori Ryoke, Fujio Matsuyama, Jong-Mu Kim, Tsutomu Takahashi and Akira Naganuma
J. Toxicol. Sci. Vol. 36, No. 3, 389-391, 2011

受賞者: 黄 基旭 (東北大学大学院薬学研究科)
李 辰竜 (東北大学大学院薬学研究科/現・愛知学院大学薬学部衛生薬学講座)

領家 克典 (東北大学大学院薬学研究科)
松山 藤王 (東北大学大学院薬学研究科)
高橋 勉 (東北大学大学院薬学研究科)
永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)

7. 賞の選考

2014年度望月喜多司賞受賞論文 (1題)

上野 光一 (千葉大学大学院薬学研究院/現・千葉大学予防医学センター)

研究課題名: ヒスタミン H4 受容体の皮膚毒性における役割と毒性学的意義に関する研究

8. 国際学会・会議への協力

(1) ASIATOX への活動協力

(2) 第54回 Society of Toxicology (SOT) 年会 (2015/3/22 ~ 26, サンディエゴ) への参加

(3) SOT との連携強化
第54回 SOT (2015/3/22 ~ 26, サンディエゴ) へ学会員を2名派遣
・鈴木 倫 (ヤクルト本社中央研究所)
・李 辰竜 (愛知学院大学)

(4) IUTOX への活動協力

(資料2)

一般社団法人日本毒性学会 2014年度収支計算書

(2014年5月1日～2015年4月30日)

	2014年度予算	2014年度決算	差異(決算-予算)	備考
[経常収入の部]				
1. 会費収入	19,920,000	22,239,000	2,319,000	
一般会員会費収入	12,800,000	14,851,000	2,051,000	当年度7,000円×1990名+過年度分
評議員会費収入	2,350,000	2,740,000	390,000	当年度10,000円×267名+過年度分
学生会員収入	410,000	408,000	△2,000	当年度3,000円×125名+過年度分
賛助会員会費収入	4,360,000	4,240,000	△120,000	38社42.4口
2. JTS発行事業収入	11,720,000	9,781,136	△1,938,864	
広告料収入	1,200,000	1,231,200	31,200	会誌広告料・バナー広告料
別刷料・掲載料収入	10,000,000	8,262,936	△1,737,064	VOL. 39-3～6 VOL. 40-1・2
定期購読料収入	300,000	280,000	△20,000	
BN販売収入	220,000	7,000	△213,000	
3. FTS発行事業収入	3,500,000	5,170,146	1,670,146	
科研費収入	3,500,000	3,500,000	0	
FTS掲載料収入	0	1,670,146	1,670,146	
4. 学術集会事業収入	57,578,400	61,652,457	4,074,057	
学術集会収入	57,578,400	61,647,970	4,069,570	
学術集会寄付収入	0	4,487	4,487	第41回学術年会より
5. 認定事業収入	6,350,000	8,285,000	1,935,000	
認定TOX資格収入	3,000,000	4,790,000	1,790,000	
認定TOX総会収入	150,000	151,000	1,000	
基礎教育講習会収入	2,500,000	2,715,000	215,000	
生涯教育講習会収入	700,000	629,000	△71,000	
6. 補助金収入	500,000	500,000	0	
ファイザー賞賞金収入	500,000	500,000	0	
7. 受取利息	4,000	4,360	360	
8. 雑収入	300,000	674,748	374,748	消費税還付金・許諾料関係
9. 振興基金運用収入	0	6,330	6,330	振興基金預金利息
10. 振興基金取崩収入	3,950,000	3,559,573	△390,427	振興基金から支払分の経費
11. 任意団体引継金収入(一般会計)	55,102,562	55,102,562	0	
12. 任意団体引継金収入(振興基金)	39,990,152	39,990,152	0	
経常収入合計	198,915,114	206,965,464	8,050,350	
[経常支出の部]				
1. JTS発行事業支出	21,700,000	18,119,980	△3,580,020	
会誌発行費	19,600,000	16,335,540	△3,264,460	VOL. 39-3～6 VOL. 40-1・2
会誌発送費	2,100,000	1,784,440	△315,560	VOL. 39-3～6 VOL. 40-1・2
2. FTS発行事業支出	3,500,000	4,128,185	628,185	
編集費	3,500,000	4,128,185	628,185	
3. 表彰事業支出	2,350,000	2,552,655	202,655	
ファイザー賞支出	500,000	497,871	△2,129	賞金・楯
田邊賞支出(振興)	750,000	707,044	△42,956	賞金・楯
学会賞・特別賞・奨励賞支出(振興)	800,000	916,640	116,640	賞金・楯
技術賞支出(振興)	300,000	338,880	38,880	賞金・楯
記念品費	0	92,220	92,220	オリジナルメダル・ケース
4. 学術集会事業支出	58,778,400	61,647,970	2,869,570	
学術集会支出	57,578,400	61,647,970	4,069,570	第41回学術年会
学術集会補助金(振興)	1,200,000	0	△1,200,000	補助金返金
5. セミナー事業支出	0	0	0	
市民公開セミナー補助金(振興)	0	0	0	補助金返金
6. 認定事業支出	5,650,000	6,947,139	1,297,139	
認定TOX資格支出	2,400,000	2,074,397	△325,603	
認定TOX総会支出	350,000	299,408	△50,592	
基礎教育講習会支出	600,000	2,854,764	2,254,764	
生涯教育講習会支出	2,300,000	1,718,570	△581,430	
7. 各種委員会事業支出	3,320,000	2,030,295	△1,289,705	
総務委員会	1,200,000	358,474	△841,526	会議費・旅費等
財務委員会	50,000	33,460	△16,540	会議費・旅費等
編集委員会	200,000	156,116	△43,884	会議費・旅費等
教育委員会	1,500,000	1,331,620	△168,380	会議費・旅費等
学術広報委員会	270,000	150,625	△119,375	会議費・旅費等
その他関連委員会	100,000	0	△100,000	
8. 関連団体連携事業費	1,780,000	2,410,452	630,452	
負担金・年会費	880,000	1,009,224	129,224	IUTOX・ASIA TOX分担金
国際学会SOT経費(振興)	900,000	1,401,228	501,228	派遣旅費交通費
9. 管理費	13,370,000	14,703,510	1,333,510	
会議費	300,000	72,530	△227,470	理事会等
旅費交通費	400,000	223,300	△176,700	理事会等
通信費	650,000	228,133	△421,867	
印刷費	600,000	1,112,257	512,257	
消耗品費	50,000	148,256	98,256	
事務委託費	9,500,000	10,810,800	1,310,800	事務委託費・会議事務局人件費等
HP更新・管理費	390,000	627,696	237,696	
支払手数料	100,000	175,378	75,378	銀行手数料
支払報酬料	220,000	432,000	212,000	公認会計士報酬料
雑費	260,000	349,460	89,460	倉庫保管料12ヶ月分・弔電等
租税公課	900,000	523,700	△376,300	法人税等
10. 振興基金繰入支出	39,990,152	39,068,269	△921,883	
経常支出合計	150,438,552	151,608,455	1,169,903	
経常収支差額	48,476,562	55,357,009	6,880,447	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	48,476,562	55,357,009	6,880,447	

(資料3)

一般社団法人日本毒性学会 正味財産増減計算書

(2014年5月1日～2015年4月30日)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
会費収入	22,239,000
一般会員会費収入	14,851,000
評議員会費収入	2,740,000
学生会員収入	408,000
賛助会員会費収入	4,240,000
JTS 発行事業収入	9,781,136
広告料収入	1,231,200
別刷料・投稿料収入	8,262,936
定期購読料収入	280,000
BN 販売収入	7,000
FTS 発行事業収入	5,170,146
科研費収入	3,500,000
FTS 掲載料収入	1,670,146
学術集会事業収入	61,652,457
学術集会収入	61,647,970
学術集会寄付収入	4,487
認定事業収入	8,285,000
認定 TOX 資格収入	4,790,000
認定 TOX 総会収入	151,000
基礎教育講習会収入	2,715,000
生涯教育講習会収入	629,000
補助金収入	500,000
ファイザー賞賞金収入	500,000
受取利息	4,360
雑収入	674,748
振興基金運用収入	6,330
経常収益計 (a)	108,313,177
(2) 経常費用	
JTS 発行事業支出	18,119,980
会誌発行費	16,335,540
会誌発送費	1,784,440
FTS 発行事業支出	4,128,185
編集費	4,128,185
表彰事業支出	2,552,655
ファイザー賞支出	497,871
田邊賞支出 (振興)	707,044
学会賞・特別賞・奨励賞支出 (振興)	916,640
技術賞支出 (振興)	338,880
記念品費	92,220
学術集会事業支出	61,647,970
学術集会支出	61,647,970
学術集会補助金 (振興)	0
セミナー事業支出	0
市民公開セミナー補助金 (振興)	0
認定事業支出	6,947,139
認定 TOX 資格支出	2,074,397
認定 TOX 総会支出	299,408
基礎教育講習会支出	2,854,764
生涯教育講習会支出	1,718,570
各種委員会事業支出	2,030,295
総務委員会	358,474
財務委員会	33,460
編集委員会	156,116
教育委員会	1,331,620
学術広報委員会	150,625
その他関連委員会	0
関連団体連携事業費	2,410,452
負担金・年会費	1,009,224
国際学会 SOT 経費 (振興)	1,401,228
管理費	14,703,510
会議費	72,530
旅費交通費	223,300
通信費	228,133
印刷費	1,112,257
消耗品費	148,256
事務委託費	10,810,800
HP 更新・管理費	627,696
支払手数料	175,378
支払報酬料	432,000
雑費	349,460
租税公課	523,700
経常費用計 (b)	112,540,186
当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	-4,227,009
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
任意団体引継金収入 (一般会計)	55,102,562
任意団体引継金収入 (振興基金)	39,990,152
経常外収益計 (d)	95,092,714
(2) 経常外支出	
経常外支出計 (e)	0
当期経常外増減額 (f) = (d) - (e)	95,092,714
当期一般正味財産増減額 (g) = (c) + (f)	90,865,705
一般正味財産期首残高 (h)	0
一般正味財産期末残高 (i) = (g) + (h)	90,865,705
II 正味財産期末残高 (j) = (i)	90,865,705

(資料4)

貸借対照表

(2015年4月30日現在)

(単位:円)

借方		金額	貸方		金額
勘定科目			勘定科目		
流動資産		80,690,420	流動負債		25,333,411
現金		0	未払金		12,347,411
預金		75,727,936	前受金		1,303,000
未収金		3,528,778	前受会費		11,134,000
前払金		1,433,706	仮受金		49,000
			未払法人税等		500,000
固定資産		35,508,696	正味財産		90,865,705
特定資産			次年度繰越金		55,357,009
振興基金		35,508,696	前期繰越金		0
			当期収支差額		55,357,009
			振興基金		35,508,696
流動資産合計		116,199,116	負債・正味財産合計		116,199,116

(資料5)

財産目録

(2015年4月30日現在)

(単位:円)

勘定科目	摘要	金額
流動資産		
現金		0
預金	郵便振替預金	40,710,575
	みずほ銀行麹町支店	30,862,922
	みずほ銀行麹町支店	595,730
	みずほ銀行日本橋支店	0
	みずほ銀行麹町支店	3,558,709
	三井住友銀行麹町支店	0
	みずほ銀行麹町支店	0
	合計	75,727,936
未収金	別刷料・掲載料収入 VOL. 38-2・3・4・5・6 13件	1,103,240
	別刷料・掲載料収入 VOL. 39-2 1件	253,100
	別刷料・掲載料収入 VOL. 39-3・4・5・6 9件	629,832
	別刷料・掲載料収入 VOL. 40-1・2 15件	1,539,106
	BN販売収入 1件	3,500
	合計	3,528,778
前払金	第42回学術年会補助金	1,200,000
	第18回認定TOX資格試験問題作成依頼経費等	184,458
	第16回生涯教育講習会振込用紙作成費	16,848
	事務委託費2015年度分一部	32,400
	合計	1,433,706
固定資産		
特定資産		
振興基金	みずほ銀行麹町支店	35,508,696
流動資産合計		116,199,116

勘定科目	摘要	金額
流動負債		
未払金	2014年5月～2015年4月事務委託費他 (株)MT	7,718,460
	JTS VOL. 39-2 印刷費他 (株)仙台共同印刷	3,907,709
	コーラスライン利用料 (株)NTTマーケティングアクト	13,891
	国際学会SOT経費・参加旅費 2014・2015各2名	707,351
	合計	12,347,411
前受金	教育事業収入分	85,000
	生涯教育講習会参加費(会員分)	69,000
	生涯教育講習会参加費(認定TOX分)	28,000
	生涯教育講習会参加費(非会員分)	63,000
	認定TOX総会懇親会参加費(認定TOX分)	3,000
	認定TOX総会懇親会参加費(名誉TOX分)	475,000
	基礎講習会参加費(一般分)	330,000
	基礎講習会参加費(非会員分)	20,000
	基礎講習会参加費(認定TOX分)	230,000
	購読料 2015年度分	1,303,000
	合計	6,837,000
前受会費	2015年度年会費	1,730,000
	一般会員会費	136,000
	評議員会費	2,400,000
	学生会費	31,000
	賛助会員費	11,134,000
	2016年度以降年会費	
	合計	
仮受金	郵便振替入金分	19,000
	別刷料過入金分	30,000
	合計	49,000
未払法人税等	2014年度法人税等	500,000
流動負債合計		25,333,411

(資料6)

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、前払金、立替金、仮払金、未収金、未払金、前受金、前受会費、仮受金、及び未払法人税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金		75,727,936
未収金		3,528,778
前払金		1,433,706
立替金		0
仮払金		0
資産合計	0	80,690,420
未払金		12,347,411
前受金		1,303,000
前受会費		11,134,000
仮受金		49,000
未払法人税等		500,000
負債合計	0	25,333,411
次期繰越収支差額	0	55,357,009

3. 引き継ぎ金収入の内訳

任意団体解散による以下の資産及び負債を引き継いだ収入である。

(1) 引継ぎ金収入一般会計

貸借対照表（一般会計） 2014年4月30日現在

(単位：円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
流動資産	73,835,291	流動負債	18,732,729
現金	0	未払金	8,405,729
預金	71,026,934	仮受金	10,327,000
未収金	2,705,660		
立替金	102,697	正味財産	55,102,562
		次年度繰越金	55,102,562
		前期繰越金	61,558,057
		当期収支差額	-6,455,495
流動資産合計	73,835,291	負債・正味財産合計	73,835,291

(2) 引継ぎ金収入振興基金

貸借対照表（振興基金） 2014年4月30日現在

(単位：円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
流動資産	40,261,939	流動負債	271,787
現金預金	39,061,939	未払金	271,787
前払金	1,200,000		
		正味財産	39,990,152
		次年度繰越金	39,990,152
		前期繰越金	39,059,765
		当期収支差額	930,387
流動資産合計	40,261,939	負債・正味財産合計	40,261,939

(資料7)

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、免税事業者であるため、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備 考
特定資産 振興基金		39,990,152	4,481,456	35,508,696	
合計	0	39,990,152	4,481,456	35,508,696	

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産 振興基金	35,508,696		35,508,696	
合計	35,508,696		35,508,696	0

4. 補助金等の内訳並びに交付金、当期の増減額及び残高

該当事項なし

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備 考
科学研究費補助金 (研究成果公開促進費)	日本学術振興会	0	3,500,000	3,500,000	0	
		0	0	0	0	

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略している。

以上

(資料8)

一般社団法人日本毒性学会 2015年度事業計画書

1. 学術集会・講習会の開催

- (1) 第42回日本毒性学会学術年会
2015年6月29日～7月1日
石川県立音楽堂, 金沢市アートホール,
ホテル日航金沢
年会長: 鍛冶 利幸 (東京理科大学)
- (2) 第16回生涯教育講習会 (3コース)
2015年6月28日
金沢市文化ホール
- (3) 市民公開セミナー
テーマ「食品表示新時代～かしこく摂ろう「健康食品」」
2015年6月28日
金沢市アートホール
- (4) 第18回基礎教育講習会
2015年8月6日～8日
東京大学農学部

2. 認定試験の実施

- (1) 第18回日本毒性学会認定トキシコロジスト
認定試験
2015年10月4日
昭和大学 旗の台キャンパス

3. 学会誌・その他の刊行物の刊行

- (1) The Journal of Toxicological Sciences
40巻3号～41巻2号, Supplement
- (2) Fundamental Toxicological Sciences
2巻3号～3巻2号
- (3) 毒性学ニュース 40巻3号～41巻2号

4. 賞の授与

- (1) 2015年度特別賞 1名以内
- (2) 2015年度学会賞 1名以内
- (3) 2015年度奨励賞 3名以内
- (4) 2015年度田邊賞授賞 4題以内
- (5) 2015年度ファイザー賞 3編程度
- (6) 2015年度技術賞 3名以内

5. 賞の選考

- (1) 2015年度望月喜多司記念賞 1名以内
- (2) 2015年度日化協LRI賞 1名以内

6. 国際活動

- (1) IUTOX への活動協力
- (2) ASIATOX への活動協力
- (3) 第55回 Society of Toxicology (SOT) 年会
(2016年3月13日～17日 New Orleans, USA)
への参加
- (4) SOT との連携強化
第55回 SOT へ学会員を派遣
第42回学術年会での SOT との合同企画

7. 2015年度推進事業

- (1) 学会主催・共催等シンポジウムの開催
- (2) 学会協賛シンポジウムの開催

8. その他目的を達成するために必要な事業として、 下記の委員会活動を行う。

常置委員会: 総務委員会, 財務委員会, 編集委員会,
教育委員会, 学術広報委員会

(資料 9)

一般社団法人日本毒性学会 2015 年度予算書

(2015 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日)

(単位:円)

	2014 年度決算①	2015 年度補正予算②	差異 (②-①)
【経常収入の部】			
1. 会費収入	22,239,000	22,140,000	△ 99,000
一般会員会費収入	14,851,000	14,750,000	△ 101,000
評議員会費収入	2,740,000	2,740,000	0
学生会員収入	408,000	410,000	2,000
賛助会員会費収入	4,240,000	4,240,000	0
2. JTS 発行事業収入	9,781,136	9,170,000	△ 611,136
広告料収入	1,231,200	900,000	△ 331,200
別刷料・掲載料収入	8,262,936	8,000,000	△ 262,936
定期購読料収入	280,000	260,000	△ 20,000
BN 販売収入	7,000	10,000	3,000
3. FTS 発行事業収入	5,170,146	5,000,000	△ 170,146
科研費収入	3,500,000	3,500,000	0
FTS 掲載料収入	1,670,146	1,500,000	△ 170,146
4. 学術集会事業収入	61,652,457	61,865,200	212,743
学術集会収入	61,647,970	61,865,200	217,230
学術集会寄付収入	4,487	0	△ 4,487
5. 認定事業収入	8,285,000	6,970,000	△ 1,315,000
認定 TOX 資格収入	4,790,000	3,860,000	△ 930,000
認定 TOX 総会収入	151,000	140,000	△ 11,000
基礎教育講習会収入	2,715,000	2,450,000	△ 265,000
生涯教育講習会収入	629,000	520,000	△ 109,000
6. 補助金収入	500,000	500,000	0
ファイザー賞賞金収入	500,000	500,000	0
7. 受取利息	4,360	4,000	△ 360
8. 雑収入	674,748	400,000	△ 274,748
9. 振興基金運用収入	6,330	6,000	△ 330
10. 振興基金取崩収入	3,559,573	4,920,000	1,360,427
11. 任意団体引継金収入 (一般会計)	55,102,562	0	△ 55,102,562
12. 任意団体引継金収入 (振興基金)	39,990,152	0	△ 39,990,152
経常収入合計	206,965,464	110,975,200	8,443,800
【経常支出の部】			
1. JTS 発行事業支出	18,119,980	18,300,000	180,020
会誌発行費	16,335,540	16,500,000	164,460
会誌発送費	1,784,440	1,800,000	15,560
2. FTS 発行事業支出	4,128,185	5,000,000	871,815
編集費	4,128,185	5,000,000	871,815
3. 表彰事業支出	2,552,655	2,520,000	△ 32,655
ファイザー賞支出	497,871	500,000	2,129
田邊賞支出 (振興)	707,044	750,000	42,956
学会賞・特別賞・奨励賞支出 (振興)	916,640	920,000	3,360
技術賞支出 (振興)	338,880	350,000	11,120
記念品費 (振興)	92,220	0	△ 92,220
4. 学術集会事業支出	61,647,970	63,065,200	1,417,230
学術集会支出	61,647,970	61,865,200	217,230
学術集会補助金 (振興)	0	1,200,000	1,200,000
5. セミナー事業支出	0	1,000,000	1,000,000
市民公開セミナー補助金 (振興)	0	1,000,000	1,000,000
6. 認定事業支出	6,947,139	7,089,400	142,261
認定 TOX 資格支出	2,074,397	2,085,000	10,603
認定 TOX 総会支出	299,408	309,400	9,992
基礎教育講習会支出	2,854,764	2,760,000	△ 94,764
生涯教育講習会支出	1,718,570	1,935,000	216,430
7. 各種委員会事業支出	2,030,295	2,840,000	809,705
総務委員会	358,474	1,370,000	1,011,526
財務委員会	33,460	50,000	16,540
編集委員会	156,116	150,000	△ 6,116
教育委員会	1,331,620	1,000,000	△ 331,620
学術広報委員会	150,625	270,000	119,375
その他関連委員会	0	0	0
8. 関連団体連携事業費	2,410,452	1,816,000	△ 594,452
負担金・年会費	1,009,224	1,416,000	406,776
国際学会 SOT 経費 (振興)	1,401,228	0	△ 1,401,228
シンポジウム拠出金	0	400,000	400,000
9. 管理費	14,703,510	16,432,000	1,728,490
会議費	72,530	70,000	△ 2,530
旅費交通費	223,300	860,000	636,700
通信費	228,133	200,000	△ 28,133
印刷費	1,112,257	1,140,000	27,743
消耗品費	148,256	150,000	1,744
事務委託費	10,810,800	9,730,000	△ 1,080,800
HP 更新・管理費	627,696	630,000	2,304
事務局移転費	0	2,085,000	2,085,000
租税公課	523,700	550,000	26,300
支払手数料	175,378	200,000	24,622
支払報酬料	432,000	432,000	0
雑費	349,460	385,000	35,540
10. 振興基金繰入支出	39,068,269	0	△ 39,068,269
経常支出合計	151,608,455	118,062,600	△ 33,545,855
当期収支差額	55,357,009	△ 7,087,400	△ 62,444,409
前期繰越収支差額	0	55,357,009	55,357,009
次期繰越収支差額	55,357,009	48,269,609	△ 7,087,400

(資料10)

2015 年度日本毒性学会 新名誉会員一覧

(敬称略)

氏 名	所 属	役 職
長尾 拓	東京大学	名誉教授
福島 昭治	日本バイオアッセイ研究センター	所長

(資料11)

2015 年度日本毒性学会 新功労会員一覧

(敬称略)

氏 名	所 属	役 職
上野 光一	千葉大学	名誉教授
三森 国敏	内閣府食品安全委員会	委員

(資料12)

2015 年度日本毒性学会 名誉トキシコロジスト一覧

(敬称略)

関田 清司
 谷口 雄三
 萩原 昭裕

(資料13)

2015年度日本毒性学会 新評議員一覧

(五十音順敬称略)

氏名	現職
市原 学	東京理科大学
石井 祐次	九州大学大学院薬学研究院
宇佐美 誠	国立医薬品食品衛生研究所
太田 亮	食品薬品安全センター
金澤由基子	食品薬品安全センター
黒岩 有一	(株)ボゾリサーチセンター
斎藤 嘉朗	国立医薬品食品衛生研究所
下位香代子	静岡県立大学 食品栄養科学部
角 大悟	徳島文理大学薬学部
田口 和彦	ブリストル・マイヤーズ(株)
出羽 康明	杏林製薬(株)創薬本部
徳本 真紀	愛知学院大学薬学部
中島 美紀	金沢大学医薬保健研究域薬学系
永田 清	東北薬科大学環境衛生学教室
西田 基宏	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター
廣田 衛彦	資生堂 リサーチセンター
蓑毛 博文	(株)新日本科学

(資料 14)

2015 年度日本毒性学会 田邊賞受賞論文一覧

(A°-ジ°番号順)

論 文 : An RNA synthesis inhibition assay for detecting toxic substances using click chemistry
 Yukiko Kametani, Shigenori Iwai and Isao Kuraoka
 J. Toxicol. Sci. Vol.39, No.2, 293-299, 2014

受賞者 : 倉岡 功 (大阪大学 大学院基礎工学研究科)

論 文 : Improvement of the evaluation method for teratogenicity using zebrafish embryos
 Akihito Yamashita, Hiroshi Inada, Kazuhiro Chihara, Toru Yamada, Jiro Deguchi and
 Hitoshi Funabashi
 J. Toxicol. Sci. Vol.39 No.3, 453-464, 2014

受賞者 : 山下 晃人 (大日本住友製薬(株) 前臨床研究所)
 出口 二郎 (大日本住友製薬(株) 前臨床研究所)
 船橋 斉 (大日本住友製薬(株) 前臨床研究所)
 稲田 拓 (大日本住友製薬(株) 前臨床研究所)
 千原 和弘 (大日本住友製薬(株) 前臨床研究所)

論 文 : FBXO6 attenuates cadmium toxicity in HEK293 cells by inhibiting ER stress and JNK activation
 Ke Du, Tsutomu Takahashi, Shusuke Kuge, Akira Naganuma and Gi-Wook Hwang
 J. Toxicol. Sci. Vol.39, No.6, 861-866, 2014

受賞者 : 黄 基旭 (東北大学 大学院薬学研究科 生体防御薬学分野)
 永沼 章 (東北大学 大学院薬学研究科 生体防御薬学分野)
 高橋 勉 (東京薬科大学 薬学部 公衆衛生学教室)
 久下 周佐 (東北薬科大学 微生物学教室)
 杜 可 (中国医科大学 薬学院薬理学研究室)

(資料 15)

2015 年度日本毒性学会 ファイザー賞受賞論文一覧

(ページ番号順)

論文：Hair-to-blood ratio and biological half-life of mercury: experimental study of methylmercury exposure through fish consumption in humans
Kozue Yaginuma-Sakurai, Katsuyuki Murata, Miyuki Iwai-Shimada, Kunihiko Nakai, Naoyuki Kurokawa, Nozomi Tatsuta and Hiroshi Satoh
J. Toxicol. Sci. Vol.37, No.1, 123-130, 2012

受賞者：佐藤 洋 (内閣府 食品安全委員会)
柳沼 梢 (尚綱学院大学 総合人間科学部 健康栄養学科)
岩井 美幸 (東北大学大学院 薬学研究科 生体防御薬学)
村田 勝敬 (秋田大学大学院 医学系研究科 環境保健学講座)
黒川 修行 (宮城教育大学 教育学部)

論文：Effects of sustained stimulation with multi-wall carbon nanotubes on immune and inflammatory responses in mice
Atsumi Yamaguchi, Tomoko Fujitani, Ken-ichi Ohyama, Dai Nakae, Akihiko Hirose, Tetsuji Nishimura and Akio Ogata
J. Toxicol. Sci. Vol.37, No.1, 177-189, 2012

受賞者：山口 敦美 (旧・東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 生体影響研究科)
藤谷 知子 (東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 生体影響研究科)
中江 大 (東京農業大学 応用生物科学部食品安全健康学科)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター総合評価研究室)
西村 哲治 (国立医薬品食品衛生研究所 生活衛生化学部)
小縣 昭夫 (東京都健康安全研究センター 環境保健部生体影響研究科)

論文：Methylglyoxal activates the human transient receptor potential ankyrin 1 channel
Susumu Ohkawara, Toshiko Tanaka-Kagawa, Yoko Furukawa and Hideto Jinno
J. Toxicol. Sci. Vol.37, No.4, 831-835, 2012

受賞者：大河原 晋 (九州保健福祉大学 薬学部薬学科)
香川 (田中) 聡子 (国立医薬品食品衛生研究所 環境衛生化学部)
神野 透人 (名城大学薬学部 衛生化学研究室)

(資料 16)

2015 年度日本毒性学会 学会賞・奨励賞および技術賞受賞者一覧

(五十音順敬称略)

学会賞

受賞者名：遠山 千春 (筑波大学 医学医療系)
 研究課題：健康環境医工学における毒性学研究の展開

奨励賞

受賞者名：李 辰竜 (愛知学院大学 薬学部)
 研究課題：有害重金属の毒性発現に関わる新たな標的分子の同定およびその作用の解明

受賞者名：藤代 瞳 (徳島文理大学 薬学部)
 研究課題：重金属の毒性発現における金属輸送体の役割に関する研究

技術賞

受賞者名：鈴木 慶幸 (株式会社シミックバイオリサーチセンター)
 受賞対象技術：L-FABP の実験動物における腎毒性バイオマーカーとしての有用性

受賞者名：水上 拓郎 (国立感染症研究所)
 受賞対象技術：トキシコゲノミクスを応用した新規ワクチン製剤の安全性試験法の開発

受賞者名：山下 晃人 (大日本住友製薬株式会社)
 受賞対象技術：ゼブラフィッシュ胚を用いた催奇形性試験におけるハイスループットかつ高い予測率を示す評価方法の改良

学会賞を受賞して

筑波大学 医学医療系 遠山 千春

日本毒性学会の学会賞を授与いただき、ご推挙いただいた永沼章先生はじめ選考の労をとられた先生方に厚く御礼申し上げます。米国 Rochester 大学の Toxicology Training Program で Ph.D. の学位を授与された者として、とりわけ光栄に存じます。受賞対象となった研究は、私が 2005 年 1 月に東京大学大学院医学系研究科・疾患生命工学センター・健康環境医工学部門に赴任して以降の研究です。赴任時に定年退職までの 10 年間のメインテーマとして、疾患解明への寄与を念頭に環境有害因子による毒性学研究を進めるとともに、それを実現するために新たな技術開発を行ってきました。そして毒性学において今後発展させるべき分野として私が重要と考えている 3 つの分野、分子標的毒性学、エピジェネティック毒性学、認知・行動毒性学に傾注し、それぞれを若手スタッフや大学院生に任せて進めてきました。それぞれの概要を以下に記します。

医薬品の場合には分子標的を想定した開発が行われるため、改めて分子標的を問題にするまでもない。しかし環境中化学物質の場合には特異的に反応する分子はほとんど見出されていない。そのような中、環境汚染物質で社会的にも大きな懸念をもたれているダイオキシンの毒性発現には、細胞内のアリアル炭化水素受容体 (AHR) の存在が不可欠であることが分かっていた。しかし、生殖発生・学習機能・免疫機能での異常や発がんなどダイオキシンによる多彩な毒性の発現メカニズムはほとんど解明されていない。そこで、分子標的毒性学研究の対象として、齧歯類新生仔に生じる水腎症を取り上げた。水腎症は尿管の閉塞により腎臓内に貯留した尿が腎実質を破壊する疾患と理解されている。しかしダイオキシンによる新生仔水腎症では尿管閉塞が生じないことから、尿管閉塞ではなくて腎・尿管機能異常が原因と考えられた。遺伝子発現解析を起点とした研究を実施し、発達期の腎臓において、ダイオキシンが生理活性物質であるプロスタグランジン E₂ (PGE₂) の合成に関わる酵素である cPLA₂ α, COX-2, mPGES-1 のそれぞれを誘導し、PGE₂ を過剰に合成することを見出した。これらの 3 つの酵素について、遺伝子欠損あるいは選択的阻害剤投与による実験を行い、それぞれ水腎症発症の原因遺伝子であることが証明できた。AHR を介さずに COX-2 を発現上昇させる Li 投与によっても水腎症が起こること、mPGES-1 が水腎症の感受性決定因子であることも判明した。これらの研究業績の一部に対して、一昨年に共同研究者の吉岡亘に奨励賞が授与された。

次にエピジェネティック毒性学について述べる。胎仔期にダイオキシンに曝露され生後に強力な発がん物質ベンツピレン (B[a]P) に曝露されたマウスでは、2 種のコントロール (胎仔期にコーン油、生後に B[a]P 投与、あるいは、胎仔期にダイオキシン、生後にコーン油を投与) に比べて胃がんが有意に発症することが判明した。胎仔期にダイオキシンに曝露したマウスの肝臓では、代謝酵素 Cyp1A1 遺伝子のプロモーターの AHR の結合部位の近傍で DNA の低メチル化が生じており、ヒストンのアセチル化が亢進し、総じてクロマチン構造が緩くなり転写活性化が起きやすい状態になっていることが判明した。発がんメカニズムにつながる知見が得られることが期待できる。

我々は認知行動毒性に焦点を当て、齧歯類の学習・記憶、情動、社会性を解析できるユニークな行動毒性試験法・解析法を考案・開発し、化学物質による高次脳機能への影響の解析を行った。一つは、地理情報と味情報をリンクさせる対連合学習が成立するかどうかを調べる試験である。胎仔期・授乳期に低用量ダイオキシン曝露を受けたラットではこの前頭前皮質に依存した対連合学習能力が低下することがわかった。もう一つは、マウスを最大 16 匹同時に飼育可能な全自動行動解析装置 IntelliCage を用いた試験である。低用量ダイオキシン曝露マウスから生まれた仔が成獣になってから報酬 (水飲み) に対する行動を調べたところ、行動柔軟性の低下、固執的行動の亢進、競争環境における社会的優位性の低下が生じることを明らかにした。この異常の背景には、内側前頭皮質と扁桃体の神経活動のアンバランスが生じている可能性が判明した。単一の化学物質の低用量曝露により、人の精神疾患類似の異常が顕れることはユニークな知見である。最近、化学物質の周産期曝露を受けた発達中の脳で、樹状突起の長さ、分岐数、スパイン密度などの微細形態異常が生じていることを発見した。すなわち、化学物質による行動異常に微細形態変化が関与していることが明らかとなっている。

末筆ながら、多くの共同研究者とご支援いただいた方々、ならびに助成団体各位に厚く御礼申し上げます。



遠山 千春

奨励賞を受賞して

愛知学院大学 薬学部 李 辰竜

この度は、2015年度日本毒性学会奨励賞を賜り、大変光栄に思っております。ご推薦いただきました熊谷嘉人先生（筑波大学大学院生命環境科学研究科）並びに選考委員の先生方に厚く御礼を申し上げます。

私はこれまでに、有害重金属の毒性発現に関与する標的分子の解明という難題を研究テーマとし、主にカドミウムやメチル水銀の毒性発現機構に関する研究を進めてきました。これまでに、カドミウムが腎近位尿細管でUBE2Dファミリー（ユビキチン転移酵素：E2）の遺伝子発現を抑制することによって、p53の過剰蓄積を引き起こし、その過剰蓄積したp53によってアポトーシスが誘導されることを立証しました。さらに、DNAマイクロアレイやProtein/DNAアッセイを駆使して、カドミウムによって発現変動する新規の遺伝子、および活性変動する新規の転写因子を複数同定することにも成功しています。また、中枢神経障害を引き起こすメチル水銀の毒性発現に

関わる標的因子の同定に関する研究も進めており、メチル水銀により脳特異的な上昇作用を示す因子の同定にも成功しています。これらの研究成果は、まだ不明な点が多い有害重金属の毒性発現機構の解明に繋がるものと期待しており、今回の受賞を励みに、微力ながら毒性学の発展に貢献したいと存じます。最後に、本研究の遂行にあたり、ご指導ご鞭撻いただきました佐藤雅彦先生や永沼章先生をはじめ、藤原泰之先生、徳本真紀先生、久下周佐先生、黄基旭先生、高橋勉先生に心より感謝申し上げます。



李 辰竜

奨励賞を受賞して

徳島文理大学薬学部衛生化学講座 藤代 瞳

このたびは2015年度日本毒性学会奨励賞を賜り大変光栄に存じます。選考委員長ならびに選考委員の先生方に心よりお礼申し上げます。

私はこれまでカドミウムやマンガンの輸送機構について研究を行ってきました。その結果、亜鉛輸送体のZIP8及びZIP14がカドミウムおよびマンガンの輸送に重要な役割を果たすことを明らかにし、その標的組織である腎臓や神経におけるこれらの輸送体の役割について解析しました。近位尿細管由来の細胞を用い、生体と似た環境で管腔側と血管側からの取り込みを分別して測定可能なカップ培養を使用し、カドミウムが一度尿細管上皮細胞に取り込まれた後、分泌され、また取り込まれるという吸収機構を提唱しました。また、マンガンについては脳神経細胞を用いて、炎症による輸送体発現変化が脳内金属蓄積を引き起こし、脳変性疾患を悪化させる可能性を明らかにしました。このように、各金属の毒性の標的組織において、カドミウムおよびマンガンの輸送機構とその毒性との関係を明らかにするという視点で

研究を行って参りました。今後も、金属毒性とその輸送の関係性を腎臓尿細管において網羅的に解析可能な系を活用し、他の金属および腎障害誘発物質についても解析していきたいと思っております。

今回の受賞を励みに今後も重金属毒性とその輸送の関係について明らかにしていく研究を行い、微力ながら毒性学の発展に貢献していきたいと存じます。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、ご指導ご鞭撻を賜りました姫野誠一郎先生、角大悟先生、また共同研究をしていただきました先生方に深く感謝申し上げます。



藤代 瞳

技術賞を受賞して

この度は、「L-FABPの実験動物における腎毒性バイオマーカーとしての有用性」について、2015年度技術賞という名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。選考委員の諸先生方に心より御礼申し上げます。

L-FABPは(Liver-type Fatty Acid Binding Protein, 肝臓型脂肪酸結合蛋白)は、近位尿細管に発現し、組織障害が進行する前段階の腎微小循環障害を反映する虚血・酸化ストレスマーカーです。尿中L-FABPの測定キットは診断薬として承認されており、臨床では既に糖尿病性腎症のモニタリングなどに利用されています。一方、非臨床分野においては尿中L-FABPを指標として腎障害の評価をしている報告はほとんどなく、我々は実験動物でも応用可能と想定して研究を始めました。ラット腎臓でのL-FABPの発現は低く、腎障害時の尿中L-FABPの検出は困難と考えられていましたが、ヒト用のELISA法を改良することで、ラット尿中に排泄されるL-FABPを検出することに成功しました。ラットやイヌの虚血

株式会社シミックバイオリサーチセンター 鈴木 慶幸

性及び薬剤性腎障害モデルにおいて尿中L-FABPは、明らかな組織障害の前から他の血中及び尿中バイオマーカーよりも早期にかつ感度よく上昇し、薬剤性腎障害モデルでは休薬期間後に正常範囲に回復することも明らかになりました。

今回の受賞を励みに、臨床と非臨床を橋渡し可能な日本発のバイオマーカーであるL-FABPの腎毒性バイオマーカーとしての国際的な利用拡大に向けて更に研究を進めていく所存です。

最後にこの場をお借りして、本研究を推進していただいた共同研究者の皆様へ心より御礼申し上げます。



鈴木 慶幸

技術賞を受賞して

この度、日本毒性学会の栄誉ある第5回技術賞を賜りまして、この場をかりまして運営委員会や選考小委員会の先生方に心から御礼申し上げます。

感染症予防に重要なワクチンは病原体を原材料とし、更に一般の医薬品の様に均一に製造する事が難しい事からも、生物学的製剤基準が定められ、高いレベルでの品質管理が求められております。そのため、ワクチンのロットリリースに関しては製造所の規格試験に加え、国立感染症研究所での国家検定が必要となります。私どもの部署では特に安全性に関し、物理化学試験や一般毒性試験を実施しております。一般毒性試験を現状に即した形で改良しつつ、一方で最先端の科学技術を導入し、新しい安全性評価法の開発を試みて参りました。特に、トキシコゲノミクスを応用し、様々なタイプのワクチンで網羅的遺伝子発現解析を行い、バイオマーカーを同定すると共に、そのメカニズム解明・有効性及び妥当性を検討して参りました。今回、社会的ニーズも高く、多種多様なワクチン開発が進んでいるインフルエン

国立感染症研究所 血液・安全性研究部 室長 水上 拓郎

ザワクチンと新規アジュバントに着目し、バイオマーカーを用いて、多施設間でより高感度かつ迅速に遺伝子発現を測定出来る系の開発に成功致しました。本方法を用いる事で、ワクチンのロット間の僅かな差も検出する事が可能となりました。

現在、遺伝子発現を指標とした次世代の安全性評価法の構築、ヒト化マウスを用いたブリッジング研究を行い、安全性・副反応予測などにも応用できる事を期待しております。今回の受賞を励みに、ワクチンの安全性評価法の開発に邁進したいと思います。今後とも、学会員の先生方のご指導・ご鞭撻の程、よろしく御願致します。



水上 拓郎

技術賞を受賞して

大日本住友製薬株式会社 前臨床研究所 山下 晃人

この度は、2015年度日本毒性学会技術賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の諸先生方に心より御礼申し上げます。

ゼブラフィッシュは、胚発生が早い、胚が透明で形態評価が可能、器官形成期を通じた化合物の曝露が可能、といった、催奇形性評価に適したモデル動物です。今回の発表では、ゼブラフィッシュの催奇形性評価における形態観察方法を改善（観察項目の選抜）し、独自のスコア化方法を考案したことで、評価の律速段階になる形態観察が容易になり、かつ観察者に依存しない評価を可能に致しました。我々が改良した手法を用い、催奇形性の有無が既知である59化合物の催奇形性ポテンシャルを評価したところ、哺乳動物における催奇形性と当該評価系において得られた予測結果が概ね相関することを確認致しました（約90%の予測率）。また、バルプロ酸、レチ

ノイン酸といった化合物については、哺乳動物における催奇形性と一致する表現型がゼブラフィッシュで認められていることを確認しており、催奇形性評価におけるゼブラフィッシュの有用性を示唆するデータを示すこと出来たと考えております。ゼブラフィッシュは、創薬研究に応用され始めてまだ間もない段階ではありますが、今回の受賞を機に、創薬研究へのさらなる応用が進むことを期待しております。



山下 晃人

田邊賞を受賞して

大阪大学 大学院基礎工学研究 倉岡 功

今回思いがけず田邊賞をいただけたことを、大変感謝しています。

我々は、これまで環境中の遺伝毒性が導くDNA損傷およびその修復機構の研究を総合的に解析しておりました。ヒトにおけるDNA修復の欠損は高発がんおよび精神神経症状を示します。すなわち、このことはヒトにおけるDNA損傷の危険性を示しているとも言えます。

一般的に化学物質の安全性、その遺伝毒性を評価するために、細菌を用いた変異原性試験（エームス試験）や培養細胞を用いた小核試験がよく用いられています。これらの方法は、細胞に生じたDNAの損傷を効率よく発見できる方法ですが、それらの分子生物学的基盤は複製機構です。複製機構が関与するDNA障害を効率よく観察することができます。

しかし、ヒトの細胞には数多くの種類が存在し、複製機構よりも転写機構が優勢になる場合が想像されます。例えば、神経細胞や心筋細胞などがそうで

す。本論文の主旨は、そのような転写機構が優勢に働く場合に観察されるDNA損傷の障害を、細胞毒性として捉える方法論の開発です。本論文は、亀谷有希子さんが筆頭著者となり、修士修了に際し、その彼女の研究成果をまとめたものです。転写を阻害する物質の探索により、これまで考えてこなかった損傷および新たな細胞の有害事象の発見にもつながっていくと考えています。

最後に我々の研究に目を止め選んでくださった田邊賞選考委員の方々に心よりお礼と感謝を申し上げます。



倉岡 功

田邊賞を受賞して

この度は、2015年度日本毒性学会田邊賞を賜り、また、技術賞と同時受賞を頂き大変光栄に存じます。選考頂いた先生方に心より感謝申し上げます。

医薬品の胚・胎児発生に関する試験では、ラットやウサギ等の哺乳類が用いられていますが、これらの実験動物を用いた評価系は評価期間が長くスループット性に欠けることに加え、コストが高く、必要な化合物量も多いことなどから、創薬研究の初期段階での評価には不向きです。そのため、我々は創薬初期段階で利用可能な新たな代替法として注目されているゼブラフィッシュの催奇形性評価法の改良を行い、今回の受賞論文で報告致しました。改良した主な点は、形態観察項目を11項目に厳選したこと、形態観察方法を簡略化したこと、観察結果を独自のスコア化により定量評価したこととの3点です。上記の改良を行ったことで、これまで報告されている評価法と比較してスループット性の向上、観察者に依存しない画一的な評価を可能にするのみでなく、催奇形性の予測率についても同等以上の検出力を有することを確認致しました。また、一部の化合物については、哺乳動物における催奇形性と一致する表現型がゼブ

大日本住友製薬株式会社 前臨床研究所 山下 晃人

ラフィッシュで認められていることから、催奇形性評価におけるゼブラフィッシュの有用性を示唆することが出来たと考えております。今回、我々が改良したゼブラフィッシュを用いた催奇形性評価法を用いることで、創薬研究の初期段階における医薬品候補化合物の催奇形性評価に貢献できると期待しております。

最後に、本研究を進めるにあたり、多大なご指導を賜りました共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。



田邊賞を受賞して

東北大学大学院薬学研究科 黄 基旭

我々の論文“FBXO6 attenuates cadmium toxicity in HEK293 cells by inhibiting ER stress and JNK activation”に対して田邊賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄です。編集委員長の鍛冶 利幸先生をはじめ関係の先生方に、共著者を代表して心から感謝申し上げます。

これまでに、有害重金属の一種であるカドミウムが示す細胞死に小胞体ストレスが関与していることが知られていましたが、それに関わる詳細な分子機構については未だ不明な点が多いままでした。今回の受賞対象となった論文は、ヒト胎児腎細胞由来 HEK293 細胞において、小胞体関連分解 (ERAD: endoplasmic reticulum associated protein degradation) 系のユビキチンリガーゼとして機能する FBXO6 がカドミウムによる小胞体ストレスを介した JNK1 (c-Jun N-terminal protein kinase 1) の活性化を抑制することでカドミウム毒性の軽減に関与していることについて報告したものです。これまでの検討により、FBXO6 がカドミウム以外の小胞体ストレス誘導剤による細胞毒性にほとんど関与せず、カドミウムによる小胞体ストレスの軽減にある程度選択的に関与している可能性が示唆されています。今後、カドミウ

ムによる小胞体ストレスを介した細胞死の誘導における FBXO6 の役割を詳細に検討することでカドミウムによる小胞体ストレスを介した細胞死に関わる分子機構の全容が明らかになると期待されます。

最後になりましたが、田邊賞選考委員会委員長の野村俊治先生をはじめとする選考委員の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



ファイザー賞を受賞して

内閣府 食品安全委員会 佐藤 洋

この度は“Hair-to-blood ratio and biological half-life of mercury: experimental study of methylmercury exposure through fish consumption in human” にファイザー賞を賜り大変嬉しく思っている。

本研究では魚摂取によるヒトでのメチル水銀負荷実験のデータから、毛髪／血液濃度比および生物学的半減期を検討した。メチル水銀のリスク評価において毛髪／血液濃度比と半減期は代謝モデルの重要なパラメータなので、引用数が多かったと思われる。またこの実験では対象者の心拍変動の解析も行い、自律神経系への影響を通したメチル水銀の心血管系へのリスクの可能性を指摘し別論文として発表した。この論文はEFSA（欧州食品安全庁）のリスク評価書に“well designed intervention study”として引用されている（ちなみに受賞対象論文は文献収集の時期に間に合わなかったため引用はされていない）。これらの研究が食品安全委員会食品影響評価技術研究のサポートで行われたことも、私にとって嬉しいことである。これを機に、一緒に受賞のステージに立

ったfirst authorの柳沼や岩井等若い共同研究者が毒性学会の場でもさらに活躍してくれることを願っている。

最後に、編集委員長の鍛冶先生をはじめ関係の皆様心より感謝申し上げる。



ファイザー賞を受賞して

旧・東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 生体影響研究科 山口 敦美

我々の論文“Effects of sustained stimulation with multi-wall carbon nanotubes on immune and inflammatory responses in mice” に対してファイザー賞という栄誉ある賞をいただき大変光栄です。編集委員長をはじめ関係の先生方に、共著者を代表して心から感謝申し上げます。この論文は私が東京都健康安全研究センターでの最後の仕事で、退職したので、その後の進展については把握しておりませんが、ファイザー賞受賞ということで、何らかの関心を持ってもらえたとうれしく思っております。仕事を始めたきっかけは、カーボンナノチューブがアスベストと同様中皮腫の原因となるという我々の科での研究結果からです。カーボンナノチューブが中皮腫を引き起こす原因を調べるため免疫系の関与について調べた結果、自然免疫系が活性化されていることがわかりました。サイトカインの産生は刺激後一時的ですぐに低下すると思っていたのですが、カーボンナノチューブの投

与後のサイトカインの産生が持続することに驚きました。おそらく、生体物質のように分解されて排出されないために、取り込んだマクロファージなどの細胞が死んでも、また次の細胞に取り込まれ刺激が続くのではないかと考えられました。分解されない物質が生体内にはいった場合には、免疫系の反応が持続し、産生され続けるサイトカイン等が癌の発生等に寄与しているのではと思っています。



山口 敦美

ファイザー賞を受賞して

九州保健福祉大学薬学部分析学講座 大河原 晋

この度は、日本毒性学会 2015 年度ファイザー賞を賜り誠にありがとうございました。これまでの受賞者の末席に加えて頂き、身に余る光栄に存じます。

糖尿病神経障害は糖尿病患者に最も多い合併症の一つですが、発症メカニズムが解明されないことと相まって、治療方法はおろか診断基準も十分に確立されていません。今回対象としたのは、感覚神経に多く発現し、侵害受容器として疼痛制御機構に働く Transient receptor potential ankyrin 1 (TRPA1) イオンチャネルです。このイオンチャネルは、17℃以下の冷刺激の他、さまざまなカルボニル化合物によって活性化されることから、生体中糖化反応における後期反応中間体（メチルグリオキサール、グリオキサール、グリセルアルデヒド、グリコールアルデヒド）に対しても応答性を示す可能性が考えられました。そこでヒト TRPA1 イオンチャネルの安定発現細胞株を樹立し、細胞内カルシウムイオン濃度を指標としてスクリーニングを行ったところ、メチルグリオキサールが濃度依存的に TRPA1 を活性化させることを明

らかにしました。また、他の温度感受性 TRP イオンチャネルを安定発現させた HEK293 細胞においては活性化能が認められなかったことから、メチルグリオキサールは TRPA1 イオンチャネルを選択的に活性化するものと考えられました。本論文は、メチルグリオキサールが TRPA1 のリガンドになりうるということ



大河原 晋

ことを証明しただけでなく、糖尿病神経障害に伴う疼痛メカニズムを解明する上で重要な知見を提供しており、今後の研究の更なる発展が期待されます。

最後になりましたが、ファイザー賞受賞にあたり、編集委員長の鍛冶利幸先生をはじめ選考委員の先生方に共著者を代表して厚くお礼申し上げます。

第 42 回日本毒性学会学術年会報告

第 42 回日本毒性学会学術年会におきましては、会員各位および関係者各位のご支援ご協力によりまして、盛会裡に終えることができました。心より感謝申し上げます。本学術年会の概要をご報告いたします。

年会長 鍛冶 利幸（東京理科大学薬学部）

1. 会期

2015 年 6 月 29 日（月）～ 7 月 1 日（水）
第 13 回市民公開セミナー：6 月 28 日（日）

2. 会場

石川県立音楽堂、金沢市アートホール、
ホテル日航金沢

3. 特別企画

年会長招待講演：2
特別講演：5
教育講演：3
シンポジウム：21
（日本中毒学会との合同シンポジウムおよび日本毒性病理学会協賛セミナーを含む）
ワークショップ：5
（日米毒性学会の交流促進プログラムを含む）
就職活動支援プログラム（学術広報委員会企画）：1
市民公開セミナー：1

4. 一般演題

口演：38 題
ポスター：264 題
（うち優秀研究発表賞応募演題 54 題）

5. 参加者数

年会：1,532 名（招待者を含む）
市民公開セミナー：120 名
懇親会：495 名（招待者を含む）

6. 優秀研究発表受賞者

P-4 安孫子ユミ
（筑波大学医学医療系）
研究題目：Biotin-(PEAC)₅-maleimide-ELISA を用いた親電子性キノン化合物によるタンパク質修飾の簡便アッセイの提案

P-6 熊本隆之

（奥羽大学薬学部衛生化学分野）
研究題目：ベンゾ[a]ピレン胎仔期曝露が脳神経系に及ぼす影響の X 染色体不活性化を指標とした解析

P-7 服部友紀子

（九州大学大学院薬学府分子衛生薬学分野）
研究題目：ダイオキシン母体曝露が出生児の発育に及ぼす影響：胎児期の成長ホルモン低下に着目した解析

P-15 長谷川洵

（田辺三菱製薬株式会社研究本部安全性研究所）
研究題目：Nefazodone により誘発されるヒト肝障害の肝毒性シミュレーションモデルを用いた予測

P-24 山岸由和

（日産化学工業株式会社）
研究題目：ジメチルアルシン酸のラット臓器 DNA に対する作用

P-31 齊藤 駿

（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
研究題目：スタチン誘発性骨格筋毒性発症に関わる microRNA の探索

P-43 織田進吾

（名古屋大学大学院医学系研究科 統合薬学領域 トキシコゲノミクス）
研究題目：HepaRG 細胞および免疫・炎症関連遺伝子マーカーを用いた薬剤性肝障害リスク評価系の構築

7. 協賛

企業（団体）展示：85 社・団体
ランチョンセミナー：15 セミナー
広告掲載（要旨集、HP）：25 社・団体
協賛企業・団体：8 社・団体

第43回日本毒性学会学術年会のご案内（第2報）

1. 会期

平成28年(2016年)6月29日(水)～7月1日(金)

2. 会場

ウインクあいち [愛知県産業労働センター]
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131
<http://www.winc-aichi.jp/>

3. テーマ

「健康増進に貢献する毒性学」

4. 年会長

佐藤 雅彦 (愛知学院大学薬学部 教授)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

青木 豊彦 (株)サンプラネット)
青木 康展 (国立環境研究所)
天野 幸紀 (興和(株))
石塚真由美 (北海道大学)
上野 光一 (千葉大学)
小椋 康光 (千葉大学)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
清宮 健一 (兵庫医療大学)
熊谷 嘉人 (筑波大学)
神野 透人 (名城大学)
遠山 千春 (筑波大学)
苗代 一郎 (医薬品医療機器総合機構)
中川 一平 (杏林製薬(株))
中村 和市 (北里大学)
永沼 章 (東北大学)
久田 茂 (あすか製薬(株))
姫野誠一郎 (徳島文理大学)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
堀井 郁夫 (ファイザー(株), 昭和大学)
務台 衛 (田辺三菱製薬(株))
山田 久陽 (大正製薬(株))
横井 毅 (名古屋大学)
吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)
吉田 緑 (食品安全委員会)
吉成 浩一 (静岡県立大学)

6. 一般演題募集

一般演題 (口演およびポスターでの発表) を2015年12月18日から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ: <http://www.jsot.jp/>

7. 優秀研究発表賞

2016年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 特別企画

年会長招待講演, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, 市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー, 広告掲載, 展示出展を募集します。詳細については追ってご案内します。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ: <http://jsot2016.jp/>

演題登録

2015年12月18日～2016年2月12日 (予定)

事前参加登録

2016年1月18日～4月15日 (予定)

11. 年会事務局

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100
愛知学院大学薬学部 衛生薬学講座
事務局長: 李 辰竜
事務局次長: 徳本 真紀
TEL: 052-757-6791 FAX: 052-757-6799
E-mail: secretariat@jsot2016.jp

2016 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事 1 名。

表彰：授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演（15 分程度）を行う。

候補者の推薦：推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

1. 推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（1,000 字以内）
3. 特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

2016 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2016 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2016 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.jp/activity/award_society.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

2016 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2016 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2016 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.jp/activity/award_encourage.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募

日本毒性学会教育委員会
委員長 務台 衛

日本毒性学会では、学会員を米国毒性学会 (Society of Toxicology, SOT) の学術年会時に開催される教育コース (Continuing Education Courses) に派遣する事業を行っております。本事業の目的は、当学会の次代リーダー候補に研鑽の機会を提供すること、および教育コースの受講成果を当学会に還元させることにより当学会の生涯教育システムの質や情報量を充実させ、学会のレベルアップを図ることにあります。

2016年は3月13日にNew Orleansにて開催予定のSOT教育コースのセミナーの中から、当委員会が指定するセミナーに計2名を派遣する計画です。

1. 対象者

派遣する学会員は以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- 1) JSOT 認定トキシコロジスト資格保有者、当学会評議員である者、当学会会員歴10年以上の正会員 (原則45歳以下とします) で本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる者
- 2) 1) に準じる者で、教育委員長が選考対象と判断した者

2. 派遣者の便益

当学会は派遣者に対し以下の費用を給付します。

- 1) 2016年のSOTへの参加費用およびSOTの教育セミナー (教育委員会が指定するセミナーと派遣者が選択するセミナー各1コース) への参加費用
- 2) 日本国内の派遣者の居住地とSOT年会開催地間のエコノミークラス往復航空運賃および宿泊費 (上限額は理事長決裁とします)

3. 派遣者の責務

派遣対象となった方には、以下の責務が求められます。

- 1) 2016年のSOT教育セミナーの中から教育委員会が指定するセミナーを受講すること。
- 2) 2016年の当学会主催の生涯教育講習会等で講師を務め、受講したSOT教育コースの内容を報告す

ること。

4. 選考方法

教育委員会が書類審査により選考を行います。2015年11月の教育委員会で審査し、理事長の決裁をもって決定します。選考結果は、12月末までに応募者宛に郵便および電子メールにてお知らせします。

5. 申込み方法

2015年10月31日までに以下の4点の書類を事務局宛に提出してください。郵送あるいは電子メールへの書類添付いずれも受け付けます。郵送の場合は封筒 (表) に、電子メールの場合は件名に「SOT教育コース派遣応募」と明記してください。

- 1) 申請書 [形式自由, 希望するセミナー (A または B) を選択して頂くことになります]
- 2) 履歴書 [生年月日, 当学会の会員番号, 最終学歴, 職歴 (業務内容を簡潔に付記してください), 現在の専門分野, 学会歴 (入会年度, 認定トキシコロジスト合格年, 評議員歴等)]
- 3) 研究業績一覧 (直近5年を中心に記載してください)
- 4) 学会評議員の推薦状

6. 派遣予定のセミナー

2016年のSOT教育コースへの派遣より、セミナー指定方法変更いたします。具体的には、これまでの「午前・午後の各1セミナー、計2セミナーの指定」から、「1セミナーの指定+1セミナーの自由選択」に変更いたします。

2016年は、下記の2コースの公募を行います。派遣は、各コース1名、計2名といたします。

A コース

- ・ 指定セミナー: 〈AM03〉
Adverse Outcome Pathway (AOP) Development and Evaluation
- ・ 自由選択セミナー:
午後に開催される「PM08-PM11, PM13」から、1

セミナーを選択してください。

B コース

- ・ 指定セミナー：〈PM12〉
Unique Approaches to Safety Assessment of Gene,
Cell, and Nucleic Acid-Based Therapies
- ・ 自由選択セミナー：
午前に開催される「AM02, AM04-AM07」から、
1 セミナーを選択してください。

SOT 教育コース (Continuing Education Courses)
のセミナー演題ならびに概要は下記の URL から閲覧
可能です。

<http://www.toxicology.org/events/am/AM2016/ce.asp>

7. 申込み・問い合わせ先

一般社団法人 日本毒性学会 事務局

【2015 年 10 月 31 日まで】

〒 102-0074

東京都千代田区九段南 2 丁目 1 番 30 号

イタリア文化会館ビル 8F

株式会社メディカルトリビューン

TEL : 03-3239-7264/FAX : 03-3239-7225

E-mail : jsothq@jsot.jp

【2015 年 11 月 1 日以降】

〒 100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル

(株) 毎日学術フォーラム

TEL : 03-6267-4550/FAX : 03-6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

第17回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

務台 衛

生涯教育小委員会委員長

鈴木 雅実

本講習会では、①トピック (SOT 報告)、②臓器毒性、③SD 育成講座を一日で学習するフレームで5年間開催してまいりましたが、来年より学習フレームを、①トピック (SOT 報告)、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーに変更いたします。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、いくつかのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。

1. 日時

2016年7月2日(土)

2. 会場

ウインクあいち 6階展示室
(スクール形式 240席)

3. プログラム (予定)

1) SOT2016 報告: Continuing Education Course
の話題をもとに

1-1 演者1 09:30 ~ 10:20

1-2 演者2 10:20 ~ 11:10

(休憩 11:10 ~ 11:20)

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー:
“皮膚の毒性変化を考える”

2-1 非病理学者のための病理学講義 — 皮膚の
構造と毒性変化— 11:20 ~ 12:25
義澤 克彦 先生 (関西医科大)

(昼休憩 12:25 ~ 13:25)

2-2 皮膚毒性評価に関する最近の話題, 評価方法
13:25 ~ 14:15
小島 肇 先生 (国衛研)

2-3 ゲノム情報に基づく重症薬疹の発現リスク
の予測とその臨床的有用性の検証
14:25 ~ 15:15

蒔田 泰誠 先生 (理研・統合生命医科学
研究センター)

(休憩 15:15 ~ 15:25)

2-4 皮膚刺激と自然免疫の関わり
15:25 ~ 16:15

川村 龍吉 先生 (山梨大学・医学部)

閉会 16:20

4. 参加費 (1日フルコースとして設定)

未定

第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 42 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 42 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：

一般社団法人日本毒性学会 事務局

【2015 年 10 月 31 日まで】

〒102-0074

東京都千代田区九段南 2-1-30

イタリア文化会館ビル 8F

株式会社メディカルトリビューン

TEL：03-3239-7264 FAX：03-3239-7225

E-mail：jsothq@jsot.jp

【2015 年 11 月 1 日以降】

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555

E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

CBI 学会 2015 年大会のご案内
「創薬のオープンイノベーション - 新領域と in silico の接点 - iPS 創薬・アカデミア創薬・ビッグデータ」

◆大会情報

大会ホームページ

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>

日 時 2015 年 10 月 27 日 (火) - 29 日 (木)

会 場 タワーホール船堀 (東京都江戸川区船堀 4-1-1)

大会長 堀内 正 (慶應義塾大学)

大会実行委員長 片倉 晋一 (第一三共 RD ノバーレ (株))

◆ポスター発表

演題区分・投稿の流れなど

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/poster.html>

投稿受付開始 2015 年 5 月 7 日 (木)

投稿募集分野

- 1) 分子認識と分子計算
- 2) インシリコ創薬
- 3) バイオインフォマティクスとその医学応用
- 4) 医薬品研究と ADMET
- 5) 上記に属さない先進的研究

◆プログラム概要

〈大会長講演, プレナリー講演, 招待講演〉

- 堀内 正 (慶應義塾大学)
- 福田 恵一 (慶應義塾大学)
- 高橋 良輔 (京都大学)
- 米田 悦啓 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
- 山本 貴史 (東京大学 TLO)
- 北西 由武 (塩野義製薬 (株))
- 田中 譲 (北海道大学)
- 水口 裕之 (大阪大学)
- 妻木 範行 (京都大学 iPS 細胞研究所)
- 浅見 麻乃 (武田薬品工業 (株))
- 片岡 徹 (神戸大学)
- 松本 俊二 (富士通 (株) 未来医療開発センター)
- 奥野 恭史 (京都大学)
- 船津 公人 (東京大学)
- 鈴木 蘭美 (エーザイ (株))

〈市民講座『地域医療のイノベーションと ICT』〉

- 石川 智久 (NPO 法人地方再興・個別化医療支援)
- 塚原 祐輔 ((株) 理研ジェネシス)
- 北岡 有喜 (国立病院機構・京都医療センター医療情報部)
- 岡崎 光洋 (クロスケアフィールド (株))

〈科研費新学術領域「分子ロボティクス」公開シンポジウム〉

◆参加登録期間と参加費

登録期間 2015 年 5 月 7 日 (木) ~ 2015 年 10 月 16 日 (金)

早期登録参加費 (9 月 30 日まで)

個人会員	12,000 円
一般 (非会員)	20,000 円
学生会員	2,000 円
学生非会員	5,000 円

参加費 (10 月 1 日以降)

個人会員	17,000 円
一般 (非会員)	25,000 円
学生会員	5,000 円
学生非会員	5,000 円

◆問合わせ先

CBI 学会 2015 年大会事務局

E-mail : cbi2015@cbi-society.org

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>

第 55 回 日本臨床化学会 年次学術集会のお知らせ

学術集会長 岩谷 良則

(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学)

期 間 2015 年 10 月 30 日 (金) ~ 11 月 1 日 (日)

会 場 大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター
 〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1

テーマ 臨床化学の未来を拓く

参加費

一般参加者	10,000 円
大学院生	2,000 円 (要 学生証提示)
学部学生	無 料 (要 学生証提示)

懇親会

10 月 31 日 (土) 18:00 ~ 20:00

2015 年 7 月にオープンするコンベンションセンター隣の
 福利厚生施設

懇親会費 一般参加者 2,000 円, 学生 1,000 円

プログラム

◇特別講演 1

「統計・情報処理技術の活用で変わる検査診断学の近未来」
 演者: 市原 清志
 (山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)

◇特別講演 2

「オミックス科学から見た未来の臨床化学」
 演者: 林崎 良英 (理化学研究所)

◇教育講演 1

「メタボロミクスと臨床化学」
 演者: 福崎英一郎 (大阪大学大学院工学研究科)

◇教育講演 2

- 「分泌型マイクロRNAの医療応用への期待と課題」
 演者：河原 行郎（大阪大学大学院医学研究科）
- ◇教育講演3
 「ビッグデータ時代の臨床化学」
 演者：瀬々 潤（産総研ゲノム情報研究センター）
- ◇教育講演4
 「脂質代謝・動脈硬化と臨床化学」
 演者：木原 進士（大阪大学大学院医学系研究科）
- ◇シンポジウム1
 「メインシンポジウム」
 — 臨床化学の未来を拓く —
- ◇シンポジウム2
 「日本毒性学会共催シンポジウム」
 — 安全性評価における臨床化学の未来 —
- ◇シンポジウム3
 「日本医用マススペクトル学会共催シンポジウム」
 — 最先端質量分析-マスプロファイリングからマスマイメーキングへ —
- ◇シンポジウム4
 「日本遺伝子診療学会共催シンポジウム」
- ◇企業シンポジウム
 — 診断と治療の未来を探る～先制診断/医療とバイオバンク —
- ◇臨床化学アカデミー
 — 日常検査で見出された検査異常の解析 —
- ◇若手シンポジウム
- ◇平成27年度第1回臨床化学・免疫化学精度保証管理技師
 指定講習会
- ◇ランチョンセミナー、イブニングセミナー、等

第55回日本臨床化学会 年次学術集会 運営事務局

株式会社日本旅行 西日本 MICE 営業部
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4
 大阪駅前第4ビル5階
 TEL：06-6342-0212
 FAX：06-6342-0214
 E-mail：jssc_55@nta.co.jp

日本薬物動態学会第30回年会概要

(平成27年8月現在)

会期 平成27年(2015年)11月12日(木)～14日(土)
 会場 タワーホール船堀
 〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-1-1
<http://www.towerhall.jp>
 Tel：03-4676-2111

テーマ 「新しい世代の薬物動態研究」
 年会長 横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

プログラム内容 (抜粋)

- ・特別講演
- ・教育講演

- ・シンポジウム (18セッション)
- ・学生主催シンポジウム (仮)
- ・一般口演, ポスター 他

参加登録

- ・事前参加登録期間 2015年4月30日(木)～9月24日(木)

参加費

- ・事前参加費
- | | |
|-----------------|---------|
| 会員・後援学会会員 | 10,000円 |
| JSSX 学生会員 (大学院) | 6,000円 |
| (学部生) | 無料 |
| 非会員および非会員 (学生) | 13,000円 |

※後援学会の会員につきましても事前参加登録の場合のみ
 日本薬物動態学会会員と同額でお申し込みいただけます。
 会員番号欄に88888をご入力ください

- ・当日参加費
- | | |
|-----------------------|---------|
| 会員 | 12,000円 |
| JSSX 学生会員 (大学院) | 8,000円 |
| (学部生) | 無料 |
| 非会員および非会員 (学生)・後援学会会員 | 15,000円 |

懇親会

- ・日時：11月13日(金)19:00～
 - ・場所：C会場 (タワーホール船堀 2F 桃源・福寿)
 - ・事前参加費
- | | |
|----|--------|
| 一般 | 8,000円 |
| 学生 | 5,000円 |
- ・当日参加費
- | | |
|----|---------|
| 一般 | 10,000円 |
| 学生 | 8,000円 |

ミキサー

- ・日時：11月13日(金)19:00～
 - ・場所：D会場 (タワーホール船堀 2F 平安)
 - ・事前および当日参加費
- | | |
|----|--------|
| 学生 | 3,000円 |
|----|--------|
- ※学生のみ参加可能です。(会員・非会員は問いません)

お問合せ先

年会事務局 名古屋大学大学院医学系研究科
 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

運営事務局

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-29
 テラサキ第2ビル (株)コネット内
 E-mail：jssx30@conet-cap.jp
 Tel：06-6398-5745
 Fax：06-6398-5746

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定
平成17年 8月 1日改定
平成24年10月 1日改定
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter : 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview : 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue : 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.
- (10) Supplemental Data : 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>) の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>) に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利害関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4 頁目からは 16,000 円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称: Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイトに公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter: 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒理学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は“採用取り消し”とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については「評議員リスト」(http://www.jsot.jp/about/list_councilor.html)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000円
賛助会員	100,000円

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9年7月24日制定 平成 24年1月 1日改定
 平成 15年7月19日改定 平成 26年5月 1日改定
 平成 19年1月16日改定 平成 26年6月17日改定
 平成 21年7月 5日改定 平成 27年2月23日改定
 平成 23年1月14日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するためにJSOT認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOTが行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時にJSOTの会員であること。
 - (ロ) 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が80点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

- (4) 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は3万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- (2) JSOT認定トキシコロジストに適切でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT理事会の承認を得るものとする。

付則 平成27年2月23日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点、それ以外の共同発表の場合は5点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 12 年 6 月 29 日制定	平成 24 年 7 月 5 日改定
平成 15 年 7 月 19 日改定	平成 24 年 12 月 12 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定	平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定	平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定	平成 27 年 2 月 23 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定	

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
11. 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評点基準

カテゴリー	評点項目	評点	上限（5年間）
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ （講師を含む）	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

塚田 裕三	石川 栄世	今道 友則	堀口 俊一
亀山 勉	福田 英臣	柳田 知司	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	林 裕造	渡辺 民朗	高橋 道人
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄
長尾 拓	福島 昭治		

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	上野 芳夫
安田 峯生	菊池 康基	田中 悟	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	松澤 利明
唐木 英明	飯家 公夫	暮部 勝	津田 修治
野村 護	牧 栄二	堀井 郁夫	大野 泰雄
山添 康	吉田 武美	上野 光一	三森 国敏

[役員] (2014～2015年度)

理事長	眞鍋 淳		
理事	青木 豊彦	天野 幸紀	上野 光一
	小野寺博志	鍛冶 利幸	菅野 純
	北嶋 聡	熊谷 嘉人	佐藤 雅彦
	関 二郎	苗代 一郎	西川 秋佳
	久田 茂	姫野誠一郎	広瀬 明彦
	務台 衛	横井 毅	吉田 緑
監事	和久井 信	落合 敏秋	佐神 文郎

[学術年会長]

第43回 (2016年) 佐藤 雅彦
第44回 (2017年) 熊谷 嘉人

[委員会] (2014～2015年度)

- 総務委員会
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会 (2015年度)
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆JTS編集委員会
 - ◆FTS編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
- ◆田邊賞選考小委員会 (2015年度)
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
- ◆基礎講習会小委員会
- ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆学会特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆望月喜多司賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会
- ★その他関連の委員会
 - IUTOX President-elect
 - IUTOX 担当
 - ASIATOX 担当

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

北嶋 聡	(委員長)		
青木 豊彦	鍛冶 利幸	菅野 純	純
熊谷 嘉人	眞鍋 淳	務台 衛	衛
菅野 純	(委員長)		
中村 和市	広瀬 明彦		
横井 毅	(委員長)		
小川久美子	佐藤恵一朗	津田 修治	
遠山 千春	(委員長)		
北嶋 聡	(委員非公開)		
青木 豊彦	(委員長)		
関 二郎	(委員長)		
鍛冶 利幸	(委員長)		
鍛冶 利幸	(委員長)		
永沼 章	(委員長)		
永沼 章	(委員長)		
鍛冶 利幸	堀井 郁夫	吉田 武美	
野村 俊治	(委員長)		
(副委員長以下非公開)			
務台 衛	(委員長)		
鈴木 雅実	(委員長)		
五十嵐勝秀	石塚真由美	於勢 佳子	
鈴木 睦	姫野誠一郎	義澤 克彦	
小野寺博志	(委員長)		
尾崎 博	(副委員長)		
朝倉 省二	桑原 正貴	古川 賢	
宮本 索	和久井 信		
久米 英介	(委員長)		
(副委員長以下非公開)			
熊谷 嘉人	(委員長)		
吉田 武美	(委員長)		
(委員非公開)			
永沼 章	(委員長)		
久田 茂	(委員長)		
(委員非公開)			
永沼 章	(委員長)		
(委員非公開)			
熊谷 嘉人	(委員長)		
(委員非公開)			
苗代 一郎	(委員長)		
佐藤 雅彦	吉田 緑		
久田 茂	(委員長)		
姫野誠一郎	(副委員長)		
伊藤 志保	橋本 愛		
永沼 章	(相談役)		

2015年10月1日 印刷

2015年10月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8F

株式会社メディカルトリビューン内

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 3239-7264 FAX (03) 3239-7225

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161